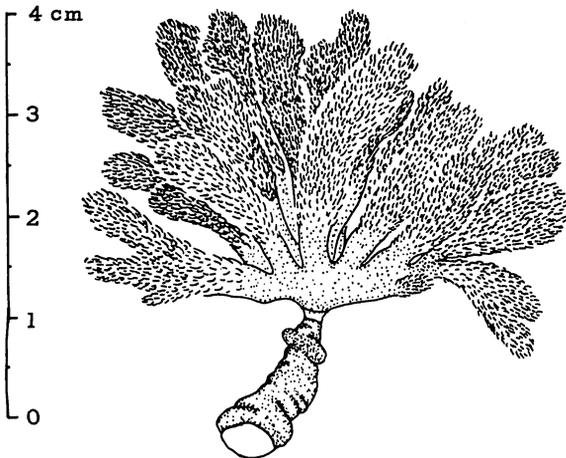


エツキヒビロウド (新称) 奄美に産す

糸野 洋*

H. ITONO : The occurrence of Genus *Gibsmithsia* (Rhodophyta) in Amami Island.

筆者は1970年6月鹿児島県奄美大島竜郷湾で海藻採集を行なった。採集は主としてドレッジ採集及び潜水採集によったが、竜郷湾の湾奥部約水深40mの海底に潜水採集中、砂泥地の海底に散在する無数の死サンゴ塊の一個に珍希な形態をした海藻を発見する事が出来た。採集した標本は二個体で、藻体長約4cm程度のものと2cm程度のもので、いずれも藻体の下部には短く固い茎を有し、茎の下部は盤状となり基質に付着しており、また茎の上部には一見ベニモズク、又はヒビロウドを思わせる形態を呈し、極めて粘柔である。生時は粘柔な部分は赤褐色で柔らかい毛でおおわれ、茎の部分は暗褐色を呈している。

Fig. 1. *Gibsmithsia* spec. Habit of plant.

このような特異な形態をした海藻は今まで知られている紅藻類の中では DOTY によってハワイ島より報告された *Gibsmithsia* 属の一種を除いて他には見られない。現在までに *Gibsmithsia* 属は *G. hawaiiensis* 一種が知られているにすぎず、*G. hawaiiensis* は本稿で報告する海藻と諸形態が極めて類似している。

DOTY は *Gibsmithsia* 属を新設するに当り次に述べるような諸形態を特徴と

* 鹿児島大学水産学部植物学教室 (鹿児島市下荒田町470)。

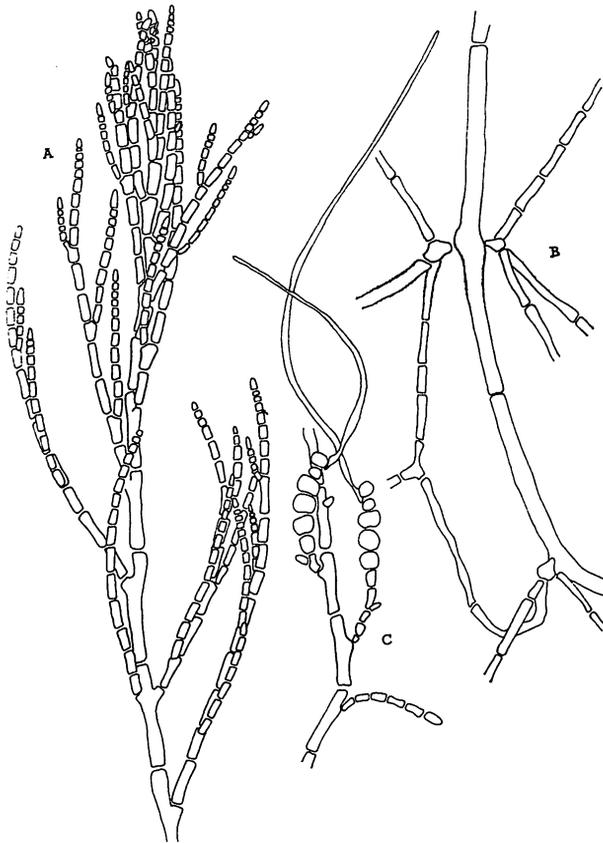


Fig. 2. *Gibsmithsia* spec. A. Cortical filament.
 B. An axial filament from the medullary region
 of a gelatinous branch of the thallus.
 C. Carpopogonial branch. (A-C×250)

して述べている。

- I) 助細胞枝は胎原列から完全に離れた所に形成される。
- II) 柔軟な藻体は永年性の固い茎より形成される。
- III) 雌性生殖器は柔軟な藻体の先端部に集まって形成される。
- IV) 枝胞子囊 (Seirospore) 及び十字状に分割する四分胞子囊を有する。

さらに DOTY は四分胞子囊形成がイギス科の藻類のそれと類似して従来知られている Dumontiaceae に所属する藻類とは全く一致しない事、及び十字状に分割する四分胞子囊を有する事は Dumontiaceae と Squamariaceae 等と系統的に関係づけるものである事等を述べている。

筆者が採集した二個

体の標本のうち一個体は未熟で生殖細胞は全く有しておらず、他の個体は生殖細胞としては胎原列を有するだけで他の生殖細胞は見られなかった。従って、*G. hawaiiensis* と生殖器官の比較は胎原列の形態を除いては出来なかったが体構造及び外形形態等から判断して本植物は明らかに *Gibsmithsia* 属の一員である事は間違いのない事が分った。しかし本邦産の標本では *G. hawaiiensis* に見られるようなこん棒状の柔軟な藻体を有しない事柔軟な藻体の基部の分枝法及び胎原列の細胞数が *G. hawaiiensis* のものと異なる事等から判断して *G. hawaiiensis* と同一種と見なす事は出来ないと思われるが、手元にある標

本が不完全である為今後の採集，研究によってその異同について論ずる事にし，本稿ではエツキヒピロウド（新称）*Gibsmithsia* spec. が本邦南海にも産する事を報告するにとどめる。

最後に本研究に対し終始御指導を賜った鹿児島大学水産学部教授田中剛先生に感謝の意を表します。

Summary

This paper deals with the specimens of genus *Gibsmithsia* collected from Tatsugo, Amami Island in southern Japan. In comparison with the descriptions and illustrations of *G. hawaiiensis* made by DOTY (1963), the present southern Japanese specimens differ from *G. hawaiiensis*. However, the materials at hand are imperfect lacking mature reproductive organs, and the identity of the present southern Japanese materials with *G. hawaiiensis* is uncertain.

文 献

Doty, M. S. (1963) : *Gibsmithsia hawaiiensis* gen. n. et sp. n. Pacif. Sci. 17 : 458-465.